

食育に関する研究

—共同調理場に着目して—

山田 俊一 (生涯スポーツ学科 学校スポーツコース)

指導教員 柴田 俊和

キーワード：共同調理場，栄養教諭，食育推進

1. 緒言

現在近畿3県（大阪府，兵庫県，京都府）の学校給食の調理場の配置率では，単独調理場の割合が高くなっている．それに比べて滋賀県の場合は共同調理場の割合が高くなっていることが表1から分かる．

表1 調理場配置率

	滋賀	京都	兵庫	大阪
単独調理場	24.7%	73.7%	56.7%	76.8%
共同調理場	75.3%	26.3%	43.3%	23.2%

木南（2012）・西岡（2013）の研究から，共同調理場よりも単独調理場の方が児童の実態を考慮した食育を推進できることがわかっている．また，滋賀県の栄養教諭の職務内容の簡素化と軽減，教諭の増員が必要であることもわかった．以上のことを踏まえて，本研究では滋賀県の共同調理場で食育を効果的に推進していくためにはどのようなことが必要なのかを明らかにすることを目的とした．

2. 研究方法

滋賀県内の共同調理場に配属されている栄養教諭10名に対しての質問紙調査（選択記述式）を行う．

3. 結果と考察

現在の滋賀県の共同調理場の現状を鑑み，今後食育を推進するために，共同調理場では食育に関する情報の発信と学校・地域・家庭との連携の強化を行うことが重要だと考える．

食育についての理解が薄いため，共同調理場から情報発信を行い，地域性に富んだ食育を進

めていき，学校・家庭・地域と連携することで，どの場所においても子どもに食育を受けさせる環境を作ることが必要だと考える．

もう一つは，教員養成段階で食育の学びが必要だと考える．筆者の経験から大学での単位修得課程に食育については含まれておらず学んだ経験もない．実際に学校現場に立った時に食育についての知識は全く無い状態になっている．結果的に同じことの繰り返しになり全く改善できなくなる．現状では，最悪のサイクルになっているので，これは改善していかなければならない．

4. まとめ

研究結果から，共同調理場で食育を推進させていくためには，「共同調理場を情報発信の場とすること」「学校・地域・家庭との連携を強化すること」「教員養成段階で食育に関する基礎知識及び経験を学ぶこと」が必要であると思われることが明らかになった．また，栄養教諭のみが食育に取り組むのではなく，教職員が栄養教諭からの情報を活用する方法を知り，実際の授業や給食指導の重要性を理解することが重要である．そして学校全体として食育に取り組む食育委員会の設置，T.T.の授業を行っていく必要がある．

引用・参考文献

1. 木南 幸士（2012）栄養教諭の制度化と活動内容—滋賀県内の実態調査を通して—，びわこ成蹊スポーツ大学卒業研究．
2. 西岡 宏規（2013）栄養教諭の制度化と食育指導について—滋賀県内の実態調査を通して—，びわこ成蹊スポーツ大学卒業研究．